

初夏まきカンラン「夏玉」の育成経過 と、その特性について

小原 昶・田中幸孝・浅井繁利
(福岡県園芸試験場)

OHARA, T. , TANAKA, Y. and ASAI, S.
A New Variety of the Summer Cabbage „NATUDAMA”

最近、春から初夏にかけては種し、7月～10月どりのカンラン品種が多く市販されているが、九州におけるこの作型は多くの特性が要求され、特に7～8月の高温期に適応できる品種が見当たらないので当地において耐暑性、耐病性を主目標として育種を行ない、ほぼ目的に達する新品種を育成し「夏玉」と命名、普及するに至つたので育成経過と特性を報告する。

1. 育成経過 1952年から葉深、川崎、田原などを導入し、毎年自殖を重ね数系統に分系し、その不和合性と純度について検定、さらに、62年からの品種間、系統間の和合程度を検定するとともに、そのF₁について耐暑性、耐病性などの特性について検討した、1962～66年の育成中、ならびに場内、現地における特性、生産力検定の結果、葉深×田原の組み合わせが、とくにすぐれていることを認め、夏玉と命名した。64年からこの組み合わせについて開花調節とあわせてオープン採種を試み、66年から現地で採種試験を実施している。

2. 特性 (第1表) 3月まきでは110日、4月まき90日、5月まき80日、6月～7月上旬まき75日、7月下旬が限度で110日の生育日数で収穫期に入る。育苗は容易で草勢強く、葉は緑色、球は緑色で光沢よく、やや腰高、球重は1.3～1.5kgで玉揃いよく、外

観、品質、食味などの商品性高く、耐暑性、耐病性などとくにすぐれている。

第1表 両親系の育成経過

系統 \ 年次		1962	1963	1964	1965
T系	1 (T11121)	食味、球形不良			
	2 (T11211)	生産力劣			
	3 (T11212)	食味不良			
	4 (T11223)	○	○	○	早生、鮮緑、耐病性 (T-4)
	5 (T11235)	形状不良			
	6 (T133125)	○	○	○	晩生、大玉 (T-6)
	7 (T213112)	ナンブ病			
	8 (T231114)	食味不良			
	9 (T231226)	○	○	コクハンサイキン病	
系統 \ 年次		1962	1963	1964	1965
Y系	1 (Y 1221)	○	コクハンサイキン病		
	2 (Y 1231)	コクハンサイキン病			
	3 (Y3A143)	○	○	○	早生食味良 (Y-3)
	4 (Y3.3.17.3)	形状不良			

第2表 初夏まき年次別の成績 7月上旬まき

年 度	1 球 平 均 重				耐 病 性				生 育 日 数			
	夏 玉	長交60	長 交 初 秋	夏 越	夏玉	60	初秋	夏越	夏玉	長交60	長交 初秋	夏越
1962	1,586 ^g	1,270 ^g	1,197 ^g	1,534 ^g	+	+	+		77 ^日	70 ^日	72 ^日	79 ^日
1963		1,290	1,261	1,534		-	卅	卅		82	84	87
1964	1,714 1,736	1,654	1,478	1,588	-	+	+	+	74 73	71	80	79
1965	1,259 1,230	1,220	1,254	1,342	-	+	卅	卅	69 70	73	77	82
1966	1,265 1,379	1,313		1,413	-	+		+	77 76	75		85